

回答・元玉川大学教職サポートルーム客員教授 峯岸 誠

第1回 単元計画の作成



年間指導計画や評価計画を作成する際に「何を教えるか」や「どのように指導を工夫するのか」などの疑問をもちます。また、年間指導計画のもとになる単元計画作成のポイントを教えてください。

A (1) 単元とは何か？

単元という用語は日常的に使われます。大単元、中単元、小単元というように序列化した表現もみられます。しかし、学習指導要領のどこをみてもこの用語を見出すことはできません。類似の用語として「内容」という語が使われています。

国立教育政策研究所の「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（中学校 社会）」（以下、参考資料）の第1編第2章の「1 評価規準の設定について」のなかに次のような記述があります。

年間指導計画を検討する際、それぞれの単元（題材）において、観点別学習状況の評価に係る最適の時期や方法を観点ごとに整理することが重要である。

さらに、「2 資料の構成等について」では、次のように示しています。

「第2編 評価規準に盛り込むべき事項等」の構成は以下のとおりである。

・各教科の構成

原則として、教科ごとに次のような内容から構成されている。

第1 教科目標、評価の観点及びその趣旨等

1 教科目標

2 評価の観点及びその趣旨

3 内容のまとめり（以下略）

ここでの「内容のまとめり」とは、学習指導要領に示す領域や内容項目等をそのまとめりごとに整理したものであり、各教科における「内容のまとめり」は、次のとおりである。

社会

地理的分野及び公民的分野については内容の(1)ア、イ・・・の各中項目、歴史的分野については内容の(1)、(2)・・・の各大項目

整理すると学習指導要領の「内容」が参考資料の「内容のまとめり」であり、単元（題材）であることがわかるでしょう。

(2) 教科書の構成と単元

これを『社会科 中学生の地理』（以下、教科書）にあてはめると次のようになります。

第2部の「日本のさまざまな地域」は学習指導要領の内容(2)にあたります。第2部3章の「日本の諸地域」は学習指導要領の内容(2)ウにあたります。これが「内容のまとめり」であり、単元と考えてよいでしょう。

「日本の諸地域」について学習指導要領は7つの考察のしかたを示しています。つまり、7つの考察のしかたを通して、7つの地方を学習させます。したがって、「日本の諸地域」は、7つの中単元で構成されていることになります。これを教科書は次のように構成しています。

- 1節 九州地方（自然環境）
- 2節 中国・四国地方（他地域との結びつき）
- 3節 近畿地方（環境問題や環境保全）
- 4節 中部地方（産業）
- 5節 関東地方（人口や都市・村落）
- 6節 東北地方（生活・文化）
- 7節 北海道地方（歴史的背景）

(3) 学習指導要領の内容の反映

教科書は「生活・文化を中核とした考察」を通して、東北地方を学習させます。

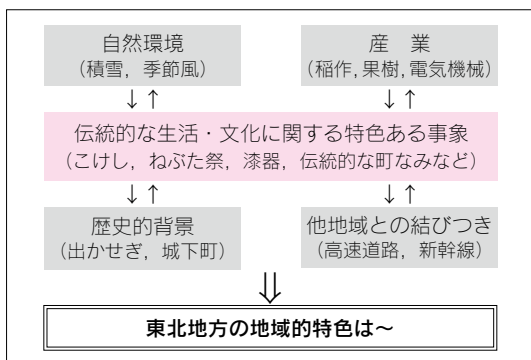
生活・文化を中核とした考察のしかたについて学習指導要領は次のように示しています。

地域の伝統的な生活・文化に関する特色ある事象を中核として、それを自然環境や歴史的背景、他地域との交流などと関連付け、近年の都市化や国際化によって地域の伝統的な生活・文化が変容していることなどについて考える。

これを教科書では次のように内容構成をしています。

- ① 東北地方はどのような地方だろうか
- ② 伝統行事をはぐくんだ東北地方の農業
- ③ 生活の変化と産業
- ④ 人々がくらす町なみとその変化

①～④は小単元になります。小単元の相互関係を図で示すと次のようになります。



小単元の表記からも読み取れるように、学習内容は7つの考察のしかたのいずれかに関連させているわけです。東北地方では、その中心に「生活・文化」をおいているのです。このような取り扱いを「動態地誌」とよびます。

(4) 単元計画のポイント

東北地方の単元計画を考える際には、小単元を並列的に指導するのではなく、小単元と中単元の内容的な関連を考察させる必要があります。このことについて学習指導要領は「内容の取扱い」で次のように示しています。

地域の特色ある事象や事柄を中核として、それを他の事象と有機的に関連付けて、地域の特色を追究するようにすること。

この趣旨を生かすためには、中核となる事象について生徒に明確に認識させる必要があります。その場面は、小単元①の「東北地方の特色を追究する課題」(教科書p.237)です。この文中に「課題」として②～④の3つの小単元が示されています。

「有機的に関連付けて」とは、東北地方でいえば、こけしづくりや漆器が冬季の家内手工業として発達した背景に積雪などの自然環境があったこと。また、やませなどの自然環境の影響を受けて五穀豊穡や疫病防止を祈念する民衆の気持ちが祭りとなって伝わっていること。現代では、道路や鉄道の整備、都市化が進み、自然環境を克服して移動が可能となったことで生活や伝統産業が大きく変化していることなどを押さえた計画を立てることが大切です。学習は小単元で完結するのではなく、中単元を構成する小単元の相互、あるいは既習の中単元の学習と関連させた単元計画を作る必要があります。

「地域的な特色をとらえさせる」という目標を達成するためには、前に示した波線部の「追究するようにする」という部分に着目する必要があります。生徒が地理的事象を見だしてその特徴を調べたり、事象間の関連を考察したりして、地域的な特色をとらえる学習、つまり課題探究的な学習を求めていることを考慮する必要があります。

学習のまとめ方については、地理的分野の目標の(4)が「適切に表現する能力や態度を育てる」としていることに留意しましょう。このことについて学習指導要領解説には、「表現といっても多様であり、各場面では求められている表現活動に的確に対応することを意味している。なお、地理的事象は地図化することによって地理的事象が意味することなどを明確にとらえることができることから、特に地図に関する表現力の育成に留意して学習指導を工夫することが大切である」とあります。

このことから、中単元の目標である「○○地方の地域的な特色は～」と生徒が地図を活用して表現できるような指導が求められます。